

同時進行 QC サークル

さまざまな機能や特性を持った樹脂原料を配合し、顧客の要望に合った製品をつくり出す大成ファインケミカル(千葉県旭市)。樹脂製品の高機能化が進むにつれて製品設計も複雑化。自動計量できない特殊原料を使うケースも増えている。

大成ファインケミカル ③

同社はこれまで、「製品をつくる直前に原料を計量しなくてはならない」というルールを設けていた。ところが特殊原料が増えて計量に時間がかかるようになると、製品ができ上がっても次の製品の計量が終わっていないため生産にとりかかれず、生産設備の「空転時間」が生じるように

日中の計量作業前倒し

設備空転時間 4分の1に



正確な計量は品質向上にもつながる

なった。

設備の空転時間をなくすには、あいている時間に次々に原料を準備しておけばよいが、それ

業はタイトになる。そこで高神達弘製造班リーダーは、まず日中の比較的生産に余裕のある時間を選んで計量作業の前倒しに挑戦。空転時間を4分の1に減らすことに成功した。年間製造量に換算すると約3日分で、1・2%の利益率向上に匹敵するという。

注文に対するレスポンスの早さで定評のある同社。「サンプルが出来上がるとその日のうちに取りに訪れる顧客も多い」(福本照義CSR推進室室長)。そんな同社にとって、生産設備の空転時間の削減は、顧客からの信頼を得ることにひと役買っている。今後、さらに複雑化する計量工程ではミスの発生をいかに防ぐか。挑戦は続く。

(火曜日に掲載)